

米欧亜回覧

第 11 号
編 集 ・ 発 行
米 欧 回 覧 の 会
事 務 局

三年目の航海・大盛会で幸先よく出帆

― 第九回例会開催さる ―

第九回の例会は、四月二十五日(土)午後一時より一部から三部までが日本プレスセンターの十階ホールで、さらには午後五時二十分からは四部が新橋亭新館で行われた。第一部の出席者は五十二名で、浅沼晴男氏の総合司会により開催、会務全般については泉三郎氏より、各グループの活動については、担当幹事より「実記」の多田幸子氏、「歴史」の半沢健市氏、「現未来」の郡山史郎氏、「国際交流」の山田哲司氏、「映像」の足立光正氏より、そして会計報告については田川信人氏よりそれぞれ報告があった。

二部については一時四十分から「米欧回覧の会に期待するもの」をテーマに、各国旗のはためく七つのテーブルに



分かれてミーティングが行われ、その結果が各テーブルのリーダーから報告された。



その後十分間の休憩があり、三部は三時より、竹内啓一先生による「米欧回覧実記を読む―その面白さと難しさ」と題する講演並びにスライドの映写にもとづく解説が行われ、最後にはコメンテーターとして牟田口義郎氏からスピーチがあった。

また、会場を移しての四部の懇親会には三十四名が参加し田川氏の司会で行われた。まず河上民雄氏より幕末使節との比較についてのコメントがあり、つづいてアメリカから参加したビジネスマンのキング氏やイタリアから参加した留学生のシルヴァーナさんから挨拶があり、さらにはメキシコに詳しい藤原宣夫氏や英国ロンドン大学LSEのフオーラムの宇田信一郎氏からもスピーチがあった。大変国際色豊かな賑やかな懇親会となった。かくして四部は午後七時半に閉会となったが、なお去りがたき有志は銀座某所に流れて第五部が行われた。

今回の講演で竹内先生は「実記を読む視点」を七つ挙げられました。一つは岩倉使節研究のため、二つは日本人の西洋体験として、三つは訪れた国の地理・歴史などの資料として、四つは百科事典的な記録として、五つは各国・各都市の比較論として、六つは久米邦武の研究資料として、七つは当時の欧米における日本人社会について、という訳です。それはそのまま「実記を読む面白さ」につながるのです。

「実記を読む会」

に期待する

たって行われ、一年経って馴染みが出来ていよいよ楽しいサロンに成長してきました。それにはまず初回から参加して見事な朗読と該博な知識でリード役をしてくださった水沢周氏のお陰があります。それからやはり最大の功労者は幹事役の多田幸子さんです。南青山のガーデン・テラスという素敵な会場を提供し、毎回手作りの料理を用意し、しかも案内から報告まできちんと世話を下さっています。メンバーはそれに甘えて、都心にありながら緑豊かなガーデンで、時間のことも気にしないでサロンの楽しさに浸ることができるとのことです。

やはり「実記」がこの会の原点です。だから「読む会」がベースなのです。おそらく読む視点はもっとも出てくるに違いありません。そしてこのガーデン・テラスから「実記の面白さ」の「百の花」が咲き出るのはないかと期待しています。あらためて幹事さんに深謝しつつ・・・

会の歩み (96/4 ~ 98/3)

4・6	「米欧回覧の会」設立総会 於国際文化会館 コンバクト版映像「岩倉使節の米欧回覧」試写(90分)	6・5	歴史部会(1) 於国際文化会館 国際交流部会(1)新宿ルミール 実記を読む会(1)青山クラウン・インターチェンジ
7・6	第一回例会 於国際文化会館 「岩倉使節の見たアメリカ」 映像「アメリカ編」上映と泉氏による解説及びフリートーク	6・2	歴史部会(2) 於国際文化会館 「青木周蔵と岩倉使節」 講師・水沢周氏(担当:歴史)
9・7	第二回例会 於国際文化会館 「岩倉使節の見た英国とフランス」 映像「英仏編」上映と泉氏による解説及びフリートーク	7・3	現未来部会(1) 於如水会館 実記を読む会(2)青山クラウン 第六回例会 於国際文化会館
11・23	第三回例会 於国際文化会館 「岩倉使節の見た欧州とアジア」 映像「欧州アジア編」上映と泉氏による解説及びフリートーク	8・30	「青木周蔵と岩倉使節」 講師・水沢周氏(担当:歴史) 横浜ツアー「開港資料館・港・映像の会」横浜テクノタワー ホテル一泊(担当:国際交流 並びに映像)
4・19	第四回例会 於国際文化会館 「岩倉使節団のプラスとマイナスを総括する」 関西支部の集まり(1) 初会合 於関西文化サロン(阪急グランドビル)	9・13	実記を読む会(3)青山クラウン 現未来部会(2)「現代日本の問題点と世直しビジョン、日本で今一番論ずべきもの」 於大宮KDD研修センター 一泊二日合宿
3・26	第五回例会 於国際文化会館 「今、岩倉使節から何を学ぶべきか」講師・山室英男氏 新幹事就任、6グループ誕生 (国際交流・歴史・現未来・「実記」を読む・映像・企画)	10・2	実記を読む会(4)青山クラウン 歴史部会(2)「明治憲法に至る道」講師・水沢周氏
11・27	第六回例会 於国際文化会館 「日本経済の方向性と21世紀	10・9	歴史部会(3)「明治憲法の成立事情」講師・水沢周氏
11・25	第七回例会 於国際文化会館 「現代日本社会のモラルと教育について」パネルディスカッション(担当:現未来)	10・14	実記を読む会(5)青山クラウン
11・21	第八回例会 於国際文化会館 「世界漫遊家の時代:岩倉使節団のころ」講師・中川浩一氏及び新春交歓「ボンケ」パ	10・25	第七回例会 於国際文化会館 「現代日本社会のモラルと教育について」パネルディスカッション(担当:現未来)

「米欧回覧の会」
第2年度会計報告

1997. 4. 1 ~ 1998. 3. 31

〈収入〉	
年会費	5 2 3 0 0 0
賛助会費(46名)・寄付(1名)	5 7 3 0 0 0
例会等会費	1 0 7 6 9 8 4
前年度繰越、貯金利子	2 7 9 7 0
計	2 2 0 0 9 5 4

〈支出〉	
例会関連費用	1 2 2 8 7 2 7
案内等郵便代	1 8 1 5 0 4
会場代	5 1 5 0 6 7
講師他お礼・お車料	1 4 5 0 0 0
食事・飲み物	3 5 6 8 8 0
コピー代	3 0 2 7 6
NEWS関連費用	5 3 2 8 6 0
7~10号印刷代	3 1 8 1 5 0
送付郵便代	1 8 0 0 6 0
封筒	3 4 6 5 0
計	1 7 6 1 5 8 7

次年度へ繰越 4 3 9 3 6 7
会員数 1 9 4 名 ('98. 4. 1 現在)

12・4	の暮し	1・25	第八回例会 於国際文化会館
12・6	実記を読む会(6)青山クラウン 映像「岩倉使節の世界一周旅行」(全10巻)の上映(担当:映像) 於白百合女子大学	2・27	「世界漫遊家の時代:岩倉使節団のころ」講師・中川浩一氏及び新春交歓「ボンケ」パ
2・2	「アイディアと行動」 実記を読む会(8)青山クラウン	2・23	「明治憲法と平和憲法」 現未来部会(4)於国際文化会館
2・5	「日本の政治:その改革のため」 実記を読む会(7)青山クラウン	2・17	歴史部会(4) 於国際文化会館
2・5	「明治憲法と平和憲法」 現未来部会(4)於国際文化会館	2・17	歴史部会(4) 於国際文化会館
2・5	「日本の政治:その改革のため」 実記を読む会(7)青山クラウン	2・17	歴史部会(4) 於国際文化会館

各分科会
活動だより

国際交流グループ

TEL 080-596-1589
FAX 0462-75-5634
連絡 沼晴男

(一) 旅のアンケートは二十名より回答をいただきました。海外四泊六日(米国)、国内二泊三日(関西)、都内日帰りの三択アンケートでしたが、感想だけの回答、複数選択+αの回答など変化と内容に富むご返信をいただきありがとうございます。都内日帰り案のご希望が大多数で、次いで七(八名)が国内旅行派、海外は改めて、日程(時期・期間)費用など調整を要することが多いことを認識いたしました。

(二) 今期の計画

(1) 旅については、日帰り(都内、近郊)と、国内一泊二泊(京都方面)について具体的に提案する。

(2) 海外ツアーについては趣旨、目的、時期(タイミング)期間など十分に時間をかけて検討し、企

画をすすめる。(来年度案件となる可能性もあります)

(3) 例会については、新年(平成十一年一月)を担当し、本年の「ボンケ・パーティー」を継ぐ楽しい「実記」にゆかりのある内容で企画する。

(4) 研究会・その他

古今東西の旅(旅行記)から学ぶ研究会(意見交換会)、今年「トクピル」のアメリカ新潮社、阿川高之著を題材に秋頃を目途に企画。別に外人講師を招き、小人数での討論会を企画の予定。

歴史グループ

TEL&FAX 03-3717-5576
半澤健市 (なるべくファクスで)
連絡 (自宅) kenhanza@ba2.so-net.or.jp
電子メール kenhanza@ba2.so-net.or.jp

(一) 次回歴史部会
六月八日(月)に国際文化会館で、憲法論議の当面の仕上げとして井上ひさし編「憲法を考へる本」(光文社文庫・一九九七年四月刊・九五二円)を読む会を、読後感を語り合う形でやります。多数のご参加を希望

します。
(二) 第十回例会の担当について
七月二十五日(土)に歴史部の担当でやります。この会のハイライトは中村政則氏の講演です。歴史学者で一橋大教授の中村氏は出版界の聖域、司馬遼太郎批判の第一弾を岩波ブックレット「近現代史をどうみるか・司馬史観を問う」(一九九七年五月)で打ち出しました。当会会員には司馬ファンが多いと思いますので中村教授の司馬論がどう受け取られるか興味津々です。

理未来グループ

TEL 03-3492-8553
郡山史郎 FAX 03-3492-8144
連絡

グループとして、もうワンラウンド討論会をする。これは、第一年度に経験した、いろいろな意見をぶつけあうことに意義を認め、それを更に深めることを期待するからである。ただし、テーマは、政治にしぼりこみ、かつ個別議題を前もって選んでおき、発表・討論・結論の形にした。議題は、例えば教育改革、福祉行政、環境、選挙制度、

政党、政治家、憲法、天皇制、外交、安全保障、景気施策、地方分権、司法、その他をアンケートで選んでもらう。年三(四)回会合を予定し、合宿も行ない、また外部からの参加もお願いする。

なお、メンバーに自分の意見、信念に基づいてボランティア活動を奨励する。その応援も行う。

実記グループ

クラウンインターチェンジプログラムズ
TEL 03-5469-2090 (代)
FAX 03-5469-2093
連絡

毎月一回開催という事で、一九九七年六月に始まったこの会は一九九八年三月で一年目全八回を終了した。テキスト久米邦武編「特命全権大使米欧回覧記」の第一巻「米利堅合衆国の部」を続み終えた。登録者は、名簿上は六十人位毎回出席者は当初は(十二~十三人)から現在は増加の傾向にあり十七~十八人から二十人位。

本年は四月から始まり、第二巻「英吉利国」の部に入った。定められた個所の好きなどころを朗読、意見交換をする。当初は「どなたか」と声を

かけても、下を向いてダンマリが多かったのに最近では遠慮していると自分の意見を云う間がないとおっしゃる方もおられる程。主宰の泉氏をはじめ、ノンフィクション作家の水沢氏、定連の博識の方々の発言に盛り上がる事しきり。不思議なのは、さしも難解だと思った「実記」が苦にならなくなったこと、それどころか、面白くてたまらなくなってきた。はからずも「音読」の効用を再認識した。

中野孝次氏の「我慢の思想」の中に音読教育をたたえて、「どこがよかったかといえよそれで我々生徒は日本語の文章の力とか、美しさとか、ひびきとか、リズムとか要するに文章と云う生きものを味わったのである」「難しい古典でも何でもとにかく朗読してその文章を体験すること」……「単語や云い廻しが少し位判らない事よりその響き、調子力をびいんびいんと感じるこの方がずっと「理解」する上で大切なことなのだ」と云う文章がある。正に実記を理解する上に於て何をさておいても参加して体で理解して欲しいと思う会である。(多田記) 申込は上記まで。

- 過去を知ることがは未来につながる。それは次の世代に役立てることになるのではないか。
- 歴史を学び、それを生かす。自分の出来ること、感じていること、していることを発表したい。
- 外国人の方も入っていたかどうか。外国人の目にとどるように日本が映っているかを聞きたい。
- 外人にもっと入会してもらおう必要がある。その接点として外人留学生を勧誘することも検討してはどうか。
- 使節団に随行した留学生のその後の人生を探求したい。知られざる世界が発見できるのではないか。またお雇い外国人の役割も大きい。彼らのその後も知りたい。
- 幕末明治の群像にはそれぞれ「光と陰」がある。ことさらその陰の部分に興味本位に、暴露的にとりあげられるきらいがあるが、輝いている光の部分を見直し、良い面を評価し確認したい。
- 旅とワインは潤滑油である。一泊でも日帰りでもよいから旅はいい。横浜ツアーでは、夕食をしながら、朝食をとりながらの語らいがとて心地よく楽しかった。そして得るところも多かった。
- この会ではやはり「実記」を

- 読むのが基本、「実記」に始まり「実記」に終わる。
- 「実記」の読み方にもいろいろあるなとつくづく思う。いろいろのキャリア、知識、感性の人から様々な感想、コメントが聞けて大変楽しいし勉強になる。
- それぞれの分科会は成功だが、会の求心力を何に求めるべきかの問題は残る。例会の運営やニュースの内容でそれに応えるところがいい。日本人はサロンのものが不得意だが、この会はその点成功している。サロンであることが、多くの多様な人たちの参加をまねき、長続きする秘訣だろう。
- このサロンは楽しいし勉強にもなる。実にいろいろの分野の人が集まっていて、利害関係なく自由に話せるのがとてもいい。サロンとして成り立ってればそれで充分でないか。
- 出てきてよかったと実感できる会が多い。話に花が咲いたと思われることが大切。メンバーの一人一人が会をつくる感じ。部会は十数名が限度だと思ふ意見交換ができることが重要である。
- サロンは楽しい会であることが必須条件、そのベースには知

「米欧回覧の会」に期待するもの・・・

〔ブンブン ミーティングから〕



- 的好奇心がある。
- 若い人たちとの交流の場が少ない。
- 世の中との接点、情報発信の方法など議論する必要がある。
- 仲間内だけで楽しんでいいの、外へ向けて何かを発信していく段階にきたのではないか。
- これだけは言うべきだということが煮詰まってくれば、それはそれで発信することがあってもいい。それから例えば選挙が近づいてきたらわれわれで推薦できる政治家をノミネイトすることぐらいはやつてもいいかも知れない。
- 政策論までいいが、行動までとなると疑問。
- 岩倉使節団の頃の対日イメージからして、外国人がみた今日の日本のイメージはどうかという問題がある。日本が外国からどう捉えられているかは興味ある研究テーマだ。
- 「実記」は技術面も大変詳しいが、久米邦武がそれを書きえたその背景が知りたい。
- 幕府が派遣した使節団との比較研究に興味がある。
- 明治以来の日本の近現代史を勉強したい。
- この会のベースになっているものに「映像」がある。これをなんとかもっと多くの人にみてもらえないか。コンパクトなビデオにするとかいろいろ方法が考えられる。
- テーマ毎に議論する場としての部会はあらまほしき姿になっている。
- この会は広い視野でものを見れるし、歴史的にものを理解できる。近視眼的な狭い見方にと

- らわれない方がいい。
- この会のいいところは自由なものがいえることであり、他人のどんな意見も聞ける柔軟さにある。だからドグマに縛られたりある一定の考えに凝り固まってしまうことだけはしたくない。
- 明治の先人が熱心に学んできたことを思うと、現代に引き比べて憂うべきことが多い。岩倉使節団の経験を現在にどう生かすか。国際関係にも経済問題にもいえることである。
- 使節団は各国で随分親切にいろいろの場所を見せてもらっているが、現在海外から来た外国人に日本は工場などそれほどオープンに見せているだろうか。またいろいろの団体が海外に視察に行っているが、どれほど真剣に見て歩いているだろうか、反省するところが多い。
- 日本のよさをどうとらえ、海外に発信していくか、これからの課題。
- 「映像」についてはもっと簡単に見れるようにする事も大事ではないか。若い層、政治家にもみせるべきだ。
- 会に参加することにより、自らが何かを見いだすことが大切だと思ふ。

- 内部も充実してきたしそろそろ行動に移すべきではないか。
- 今の世の中をみていると何かしないではいられない。
- 世直し提言をするのは良いが、政治行動の実践は好ましくない。サロンに馴染まないし、意見もまとまらないだろう。
- 右も左もなく最大公約的に



『米欧回覧実記』を読む …その面白さと難しさ

講師

竹内啓一先生

駒沢大学教授
日本経済地理学会会長
一橋大学名誉教授
元ローマ文化会館館長
元日本地理学会会長

講演要旨は左記の通りです。

「実記」を読む面白さを次の七つの視点から挙げてみたい。そしてそれがまたそのまま「実記」を読む難しさにもつながっていると思う。

第一は岩倉使節団の研究資料としての面白さです。これは半公式的な記録であるけれど旅の全貌を捉える上で極めて貴重な資料である。ただ、書記という下級随員であった久米の見聞に拠る記録だから（むろん使節団員の意見も採り入れているだろうが）、それがそのまま岩倉大使や首脳陣の見聞とイコールだと思ってしまうと間違える可能性がある。この点には注意しなくてははいけない。

第二は日本人の西洋体験の記録としての面白さである。実にいろいろのことについて的確な理解をしそれを簡潔に表現している。当時は明六社の運動にもみられるように西洋一辺倒のところも風潮としてあったにもかかわらず、久米は醒めた目で西洋の短所も指摘している。ただ、久米は常に日本との比較で考察しているのに、例えば政治について天皇制のことには言及していないところもある。

第三には訪れた国や都市の一八七〇年代の様子を知る上での面白さである。その点について極めて詳しい記録であり、それを現代と比較すると非常に面白い。ただ、困るところは地名、人名など、久米は耳にしたままを漢字に当てているのでわかりにくいものがある。もっとも最近では各界の研究者によって解明されてきているので助かるが・・・

第四は百科全書的な記録であり、旅行案内的な記録としての面白さである。西洋にはマレーとかベデカという旅行案内書があったが、日本に本格的な西洋案内が出されるのは第二次大戦後のことである。だから西洋のことについて、例えば銀行、郵便局、博物館についても、このように的確に実態を紹介したものはないのではないか。

第五には各国の比較が面白い。例えば三大国として英仏米を比較し、また小さな国、ベルギー、オランダ、スイスなどについてもちゃんと比較しその良さも書いている。そして船で通過しただけのアジアについても例えばスマトラのアチエ戦争のことまで言及して西洋帝国主義の裏面についても書いている。したがって外国をどう評価するかという点でも貴重な文献である。

第六には久米邦武という人物の研究資料としての面白みである。後に東京帝大の歴史学教授になり、はからずも「天皇は祭天の古俗」という表現が筆禍事件をおこして追放され早稲田の教授になることなど併せて考えると「米欧回覧」の影響が大変大きいと思う。

第七は当時の米欧にいた日本人の動静を知ることのできる興味である。もちろんその数は少ないのだが、使節団を訪ねてきたことからどんな人物がそのころ米欧にいたかわかって興味深い。ただ、この点については幕末の旅行記の方が面白いともいえる。国内では犬猿の仲の薩摩と長州の連中が外国では大変仲良くしていたりして・・・

大変示唆に富むお話を伺いありがとうございました。私も「実記」のファンとして、竹内先生が挙げられた七つの視点、その面白さをいちいち共感をもって拝聴いたしました。

そして新聞社の特派員としての私の経験から付言させていただと、これは日本人として初めて世界を実見して書いた素晴らしいルポルタージュだと思えます。その意味から八つ目の面白さとして、「紀行文のパイオニア」・・・これも国際関係まで視野にいった「ルポルタージュのお手本」として評価したいと思えます。

〈事務局から〉
*グループへのお誘い
この会の良さはサロンのようなところにあります。それには少人数であり興味が共通していることが必要になります。そこで分科会的グループが誕生したわけですから、どうぞ積極的にグループの会に参加して下さい。自然に親しくなり楽しくなります。

入会希望の方は各担当幹事または事務局までご連絡ください。
*新しいグループやサークルをつくる
もしそのような考えのある方はお手紙を下さい。趣旨を会報に載せて同志を募りましょう。小さなサークルがあってもいいですね・・・
*例会の欠席について
毎回、例会ではノウシヨウ（無断欠席者）が出て事務局を悩ませていますが、四月の例会では十名も出て大変に困りました。そうした場合は、詫び状と共に会費を送ってください。連絡のない人もあります。今後は無断欠席の場合、その分の会費を請求するようにしたいと思えますのでよろしく・・・

< 催 し 案 内 >

『米欧回覧の会』ご案内

趣 旨 この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である、「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。

この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。

この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会 員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例 会 年に4回くらい会合をもつ予定です。

事 業 次のような活動をする予定です。テーマ別グループ活動・映像サロン・講演会・旅行会研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し、活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹 事 会員の中から、代表1名、幹事数名を選び、運営を担当します。

会 費 年会費3,000円とし、主として通信費および機関紙代に充当します。例会・研究会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面は『ミササ・オフィス』に置きます。

〒192 八王子市元横山町1-14-16
-0063 TEL 0426-46-1949
FAX 0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先（自宅或いは勤務先の住所）
TEL・FAX 現職&キャリアを事務局
までFAXまたは郵便でお送りください。
なお、年会費は郵便払込が便利です。

00180-2-580729

米欧回覧の会

★ 第10回例会

日 時 7月25日(土) 13:00~19:00

場 所 国際文化会館ホール (担当・歴史部会)
TEL 03-3470-4611

テ ー マ 司馬史観を問う…歴史と小説

講 師 歴史学者 中村政則氏 (一橋大学教授)

参 考 岩波ブックレット 中村政則「司馬史観を問う」

★ 分 科 会

・歴史部会 6月8日(月) 18:30~21:00

国際文化会館Cルーム

テ ー マ 「憲法を考える本」を読む

今回は憲法アンソロジー(論集)を資料にして自由な討論会にしたいと思います。

参 考 井上ひさし選「憲法を考える本」光文社文庫

会 費 1000円(会場費として)

・「実記」を読む会

(原則として毎月第1木曜日・8月はお休み)

第11回 6月4日(木) } 18:30~21:30

第12回 7月2日(木) }

場 所 クラウンインターチェンジ

TEL 03-5469-2090

会 費 3,000円(飲食代こみ)

・現未来部会

日 時 6月24日(水) 18:00~21:00

場 所 国際文化会館Dルーム

※活動の具体的計画のため、グループメンバーに、

5月中に、アンケートをお配りする予定です。

どうぞご協力をお願いします。

★ 関西支部の集まり(第4回)

6月22日(月) 18:00~21:00

大阪大学工業会会議室

(近鉄堂島ビル20階 TEL 06-344-6171)

・問い合わせ 山崎岳麿 06-853-3137 FAX 兼用

＊ 編 集 後 記

顧みれば、「米欧亜回覧」NEWSの第一号は「米欧回覧の会」の設立より半年早く、平成七年十月二十六日に発行されています。当時は「JIKKI SALON」という副題がついており発行主体は「準備室」でありました。

実はその年の九月二十日に国際文化会館のホールで初めて「岩倉使節の世界一周旅行なる全九巻のスライド上映会」が行われ、午前十一時より午後五時までの長丁場にもかかわらず多数のゲストを含め約百名が参加して大変な好評を博したのでした。

そのため続いて行われた懇親会も大いに盛り上がり、せっかくなら集まったのだからこれを機に会を作ろうと「準備室」が設けられたのです。

そしてその初仕事はニュース第一号の編集であり、その名が「米欧」ではなく「米欧亜」とされたのです。それはこの会が当初より今日的なグローバル時代のサロンを目指していたことを物語っています。三年目の大航海に祝福あれ。